

## フルアジナム水和剤によるリンゴ紫紋羽病の防除

リンゴ紫紋羽病に対してフルアジナム水和剤の土壌注入処理は防除効果が高く、処理当年から樹勢が回復する。本剤による防除法は、各種土性条件でも防除効果があるため、県内各地で適用できる。

リンゴ紫紋羽病は土壌伝染性の難防除病害である。これまでの防除薬剤では、中～重症樹に対する防除効果が劣る問題点があった。

今回、新規殺菌剤フルアジナム水和剤(商品名:フロンサイドSC)の防除効果と県内各地での適用性を検討した。



紫紋羽病の罹病樹



罹病樹では8月頃になると地際に菌糸膜が認められる。これが防除対象樹の目印になる。

表 異なる土壌タイプの園地における樹勢回復程度

供試薬剤	埴壤土(久慈市)			砂壤土(藤沢町)			重埴土(花泉町)		
	回復	維持	悪化	回復	維持	悪化	回復	維持	悪化
フルアジナム水和剤	2	6	0	1	4	0	1	3	1
トルクロホスメチル水和剤	0	4	3	1	2	2	0	0	5
無処理	0	2	5	-	-	-	-	-	-

罹病樹に土壌注入処理し、当年または翌年秋の樹勢の回復程度を調査した。フルアジナム水和剤処理区は、トルクロホスメチル水和剤(商品名:リゾレックス水和剤)処理区と比べて、いずれの園地でも樹勢が回復または維持した。

### 【処理方法】

1. 発生状況を把握し、防除対象樹に目印をつける。
2. 処理時期は、消雪後から病原菌の動き出す5月中旬までに行う。
3. フロンサイドSCの500倍液を、動力噴霧機に連結した注入器を用いて注入する。台木地際部1m<sup>2</sup>、深さ30cmの範囲に薬液がよく到達するように50L/樹(成木)注入する。
4. 処理に要する時間は、2人で注入処理を行うと1樹当り5～10分である。
5. 処理後の樹勢回復等を把握する。樹勢に合わせて果実をある程度着果させながら観察したほうが、より正確に把握できる。

